

C型肝炎治療促進のための 医師向け患者説明資材ガイド

平成27年 佐賀県

目次（C型肝炎治療促進患者説明ガイドの概要）

項目	概要	頁
目的	肝がん死亡率ワースト1を卒業することを目的としています。	2
内容	現場の実情やアンケートの分析結果 ※ から、肝疾患患者さんの治療を促進するため、医師から患者さんへ説明するツールです。	
総括	治療を勧めるために患者さんの不安を理解して医療者が伝えるべきこと	3
利用法	資材活用の効果と治療を勧めるタイミング	4～
各論	肝炎の治療の必要性や精密検査、県助成制度の情報	6～

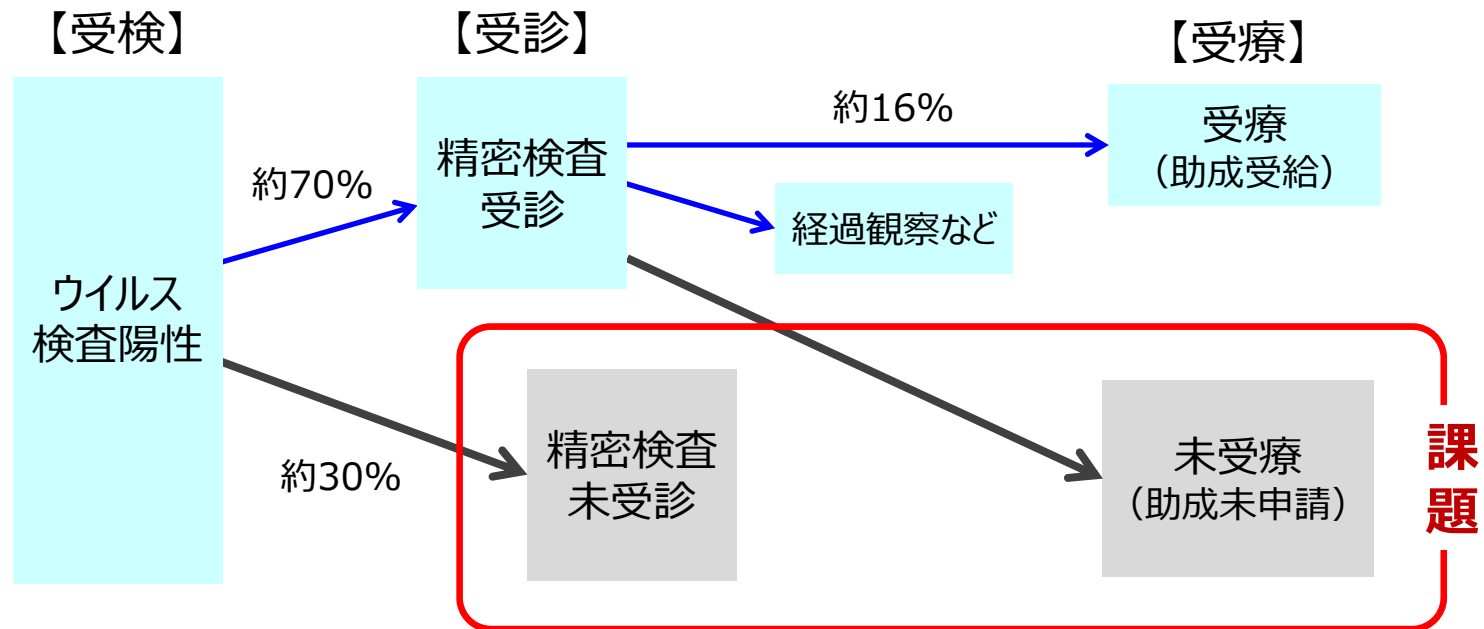
※佐賀県データ利活用プロジェクト及び厚生労働省科学研究（肝炎等克服政策研究事業）

目的、現状と課題

目的

肝がん粗死亡率ワースト1からの“卒業”

現状
と
課題



過去の陽性者、検査で陽性だった患者が
治療まで結びついていない

患者さんの不安を理解して医療者が伝えるべきこと

患者の不安・疑問

- ✓ **未治療者が心配していること**
 - 治療により、これまでどおりの生活が送れなくなる・・・
 - 医療費が払えるだろうか・・・
- ✓ **未治療者の認識が十分ではないこと**
 - 肝炎ウイルスは自然には排除されない
 - 助成制度を活用すれば医療費が少なく済む

患者が治療を受けるきっかけ

- ✓ **医師から、適切なタイミングで説明を受ける**
 - 「ウイルス検査で陽性と伝えるとき」に大きな効果がある

患者に効果的な説明の方法

- ✓ **医師から、口頭 + アルファ の説明を受ける**
 - 「リーフレットも使った説明」に大きな効果がある

- ※ 肝炎治療費助成（インターフェロン治療）申請者／未申請者へのアンケート調査・分析結果から
- ・ 助成申請者：2,934名へアンケート送付（回答率：52.3%）
 - ・ 助成未申請者：279名へアンケート送付（回答率：36.2%）

治療する気を高めるには、資料を用いることが効果的

■ 説明には資料が効果的

治療者は、「医師の言葉」と「説明資料」により治療する気になっています。

一方で、未治療者は、説明や治療を促されたことを覚えていません。

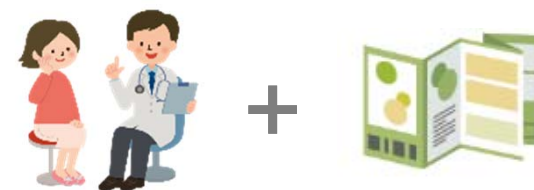
「目に見えるかたち」で、「医師の言葉」で患者さんの「『今』、治療する気」を促しましょう。

■ 陽性と分かったときから説明を

治療者は「ウイルス検査で陽性と伝えられたとき」の説明で強く治療する気になっています。

陽性と伝えるときから肝炎への認識、精密検査や治療の必要性、内容、助成制度の情報提供が重要です。

■ 現場の実情やアンケート分析結果などをもとに作成した資料をぜひ、ご活用ください。



佐賀県

今こそ、たたけ！
肝炎ウイルス

入院しないで肝炎ウイルスをたたく飲み薬も、できました。

肝炎ウイルスを放置しておくと、
肝がんに進む可能性があります。
肝臓別の数値が基準内でも、肝がんに進んでいることがあります。

佐賀県の肝炎患者の相談窓口へお電話を **0952-34-3731** (佐賀大学 医学部附属病院 肝炎センター)
月～金(土日除く) 10:00～16:00

肝炎治療促進資材の位置づけ

- 肝炎ウイルス検査で陽性と判明した方（過去陽性者含む）への精密検査や治療の勧奨と、医師の説明を連動させることで、効果的な治療促進が図れます。



【陽性者向けリーフレット】
：肝炎ウイルス検査陽性者へ送付
（検査機関や行政からの送付を想定）

【医師資材】
：医師から患者さんへ説明

【説明後配布資材】
：医師説明後、説明リーフレット（配布用）
を渡す

不安の解消と正しい認識の促進①

■ まずは、肝炎に関する不安の解消と正しい認識の促進を

未治療者は、「治療をすると今までどおりの生活ができない」という不安をもっていたり、「ウイルスが自然に排除される」と誤った認識をもっています。

肝炎ウイルスを3ヵ月でたたく飲み薬もできました。

入院しないで肝炎ウイルスをたたく飲み薬もできました。

肝炎の薬は急速に進歩し、近年は飲み薬だけで肝炎ウイルスを消せるようになりました。入院の必要もないため、仕事を休むことなく治療できます。
※ 病状によっては、入院して治療を受けることもあります。

服用期間は3ヵ月*です。

服用中は禁酒すること以外、とくに生活を変える必要はありません。身体への負担も少ないです。※ 病状によっては、服用期間が6ヵ月の場合や、注射による治療の必要もあります。

肝機能の数値が基準内でも、肝炎が進行してるかもしれません。

肝炎は「沈黙の病」と呼ばれるほどがまん強く、肝炎が進行していても自覚症状がないことが多くありません。

肝炎ウイルスから発症する病状

正常 → 慢性肝炎 → 肝硬変 → 肝がん

※ 場合によっては、肝炎から直接肝がんを発症することもあります。

まず、精密検査で肝臓の現在の状態を調べましょう。

■ ウイルス量検査 (検査時間:約15分) ■ 超音波検査 (検査時間:約20分)
血液中の肝炎ウイルス量を調べます。 超音波で肝臓の状態を調べます。

結果を踏まえて、あなたにもっとも適した方針を提案します。

今なら、検査にも治療にも、助成制度が利用できます。

検査費用 費用のうち、上限5,000円を県からお返しします。
(国庫補助・国庫補助の場合)

治療費用 ひと月10,000円または20,000円です。
(世界市民の予防対策費 (若年層) 補助制度により)

㊦ チェック①

今なら、薬によっては、「治療しても生活の変化は少ない」ことを伝えてください。

㊦ チェック②

「検査数値が正常でも、安心できない」ことを伝えてください。

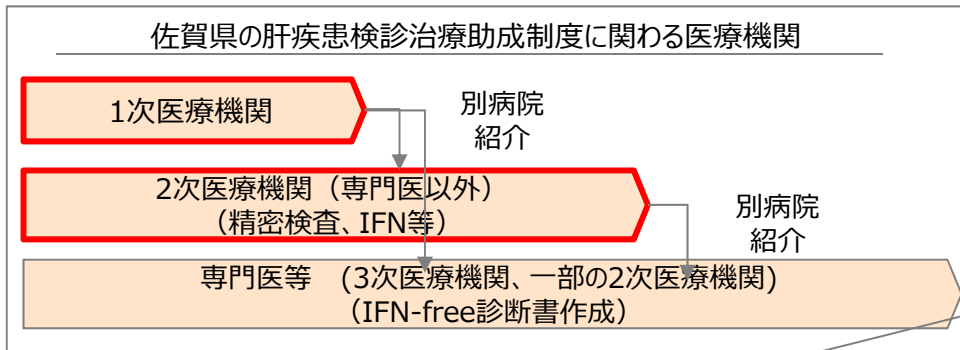
自身の症状の理解

■ 必要に応じて専門の医療機関などの紹介を

肝炎ウイルス検査で陽性といわれたら、精密検査で自身の症状を理解してもらいます。しかし、「自覚症状がないから」、「忙しいから」と精密検査を受けない方や、受けても結果を確認していない方が多くいます。

自院で精密検査等ができない場合は、「**専門の医療機関などを紹介**」することが重要です。検査、治療できる医療機関をお伝えください。（以下、県ホームページ）

⇒https://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1019/kanen/_85596.html



③ チェック③

まずは、自身の症状を理解することが重要です。必要に応じ、精密検査を受けたか、を確認するなどして、確実に受診してもらいましょう。



不安の解消と正しい認識の促進②

■ 検査費用や医療費には県からの助成があります

未治療者は、「医療費が払えるか」という不安をもっています。

しかし、その解決策の「治療費助成制度」についての認知度は、残念ながら低い状態です。

肝炎ウイルスを3ヵ月でたたく飲み薬もできました。

入院しないで肝炎ウイルスをたたく飲み薬もできました。

肝炎の菌は急速に進歩し、近年は飲み薬だけで肝炎ウイルスを消えるようになりました。入院の必要もないため、仕事を休むことなく治療できます。
※ 病状によっては、入院して治療を受けることもあります。

服用期間は3ヵ月*です。

薬中では劇薬すること以外、とくに生活を変える必要はありません。身体への負担もわずかです。* 病状によっては、服用期間が6ヵ月の場合や、追加による治療の場合があります。

肝機能の数値が基準内でも、肝炎が進行してるかもしれません。

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれるほどがまん強く、肝炎が進行していても自覚症状がないことが多くありません。

肝炎ウイルスから発症する病気

正常 → 慢性肝炎 → 肝硬変 → 肝がん

場合によっては、肝臓から両側腎臓がんを発症することもあります。

まず、精密検査で肝臓の現在の状態を調べましょう。

■ ウイルス量検査 (検査時間:約10分)
血液中の肝炎ウイルス量や型を調べます。

■ 超音波検査 (検査時間:約20分)
超音波で肝臓の状態を調べます。

結果を踏まえて、あなたにもっとも適した方針を提案します。

今なら、検査にも治療にも、助成制度が利用できます。

検査費用 費用のうち、上限5,000円を県からお返しします。
(医療保険・前払金の場合)

治療費用 ひと月10,000円または20,000円です。
(世帯会費の取付対象額 (所得額) 課税年額によります)

④ チェック④

今なら、「助成制度が利用できる」ことを伝えてください。

(リーフレットの記載は一例です)

【精密検査費の助成】

医療保険1割：1,700円

医療保険2割：3,400円

医療保険3割：5,000円

詳しくは、肝炎コーディネーターや最寄りの保健福祉事務所に問い合わせるよう、患者さんに伝えてください。

不安の解消と正しい認識の促進③

■ 年代、性別によるさまざまな不安、疑問を受け止める

陽性者向けの精密検査、治療の勧奨用リーフレットと連動していますので、効果的に陽性者の不安や疑問を受け止めることができます。

㊦ チェック⑤

今なら、「インターフェロンに比べ、副作用が小さい薬が選択肢できる」ことを伝えてください。

肝炎 Q&A
よくあるご質問にお答えします。

どんな治療法があるのですか？
薬、注射による治療や、注射による薬を飲み合わせる治療が行われてきました。最近では、病状によっては、1日1～2回服用する飲み薬のみで治療する薬の開発もできています。

治療費はどれくらいですか？
治療の給付制度があるため、自己負担額はひと月あたり10,000円または10,000円です。(治療費の自己負担額は、給付制度により異なります)

どの病院へ行けばいいですか？
かかりつけ医から診断します。以下から探すこともできます。
<http://www.asahibbbccc.jp>

治療期間
3ヵ月または6ヵ月です。病状や病状によって異なります。

仕事や日常生活に影響しますか？
入院して仕事を休んだり、就業中一時的に自宅療養を要するようになるとは、ほとんどありません。また、治療中は禁酒です。とくに生活を変える必要はありません。治療中に一時的な影響も受けられる場合があります。

治療による身体の負担はありますか？
病状により個人差があります。たとえ肝臓病のみでの治療は、3ヵ月間、1日1～2回服用するだけで負担が少ない治療が可能です。

通院の頻度は？
飲み薬の服用中は、原則として2週に1回通院し、必要に応じて薬品などを処方します。

佐賀県の肝疾患
拠点病院の相談窓口へ
お電話を
0952-34-3731
月～金(祝日除く) 10:00～16:00 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター

佐賀県 佐賀県健康課 がん対策推進担当
TEL: 0952-25-7274 FAX: 0952-25-7268

㊦ チェック⑥

治療方法によっては、「仕事」や「生活への影響」が少ないことを伝えてください。

以下、佐賀県肝炎治療に関する アンケート調査資料

アンケート概要

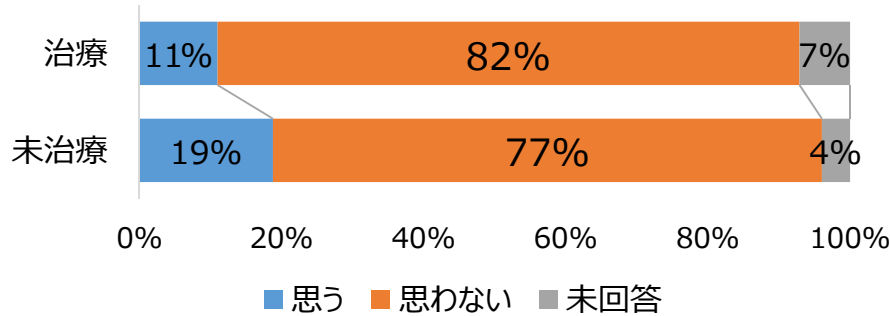
調査概要	調査背景・課題	<p>佐賀県は肝がんによる死亡率ワースト1である。肝がん死亡を減らすためには、ウイルス性肝炎患者の抗ウイルス治療(インターフェロン治療など)を促進する必要がある。</p> <p>要医療者を受療に結びつけるため、受療促進のための要因分析と施策立案を行い、2017年度までに肝炎受療者数(治療費助成申請者数)を累計6,700名達成を目標とする。</p>
	調査目的	<p>要医療者がインターフェロン治療を受けるきっかけと、要医療者にも関わらずインターフェロン治療を受けない要因を把握し、受療促進施策の検討を行う。</p>
	調査対象	<p>平成22~25年の間に、県でHCVウイルス検査受療後、要医療者と判断された、インターフェロン治療の治療費助成申請者(治療者) 2934名及び治療費助成未申請者(未治療者) 279名</p>
	調査方法	<p>郵送調査</p>
	実査期間	<p>2015年3月15日~4月15日 (1か月間)</p>
	回収率	<p>治療者 52.3% (1534/2934名) 未治療者36.2% (101/279名)</p>

治療者・未治療者の事前認識・不安の違い

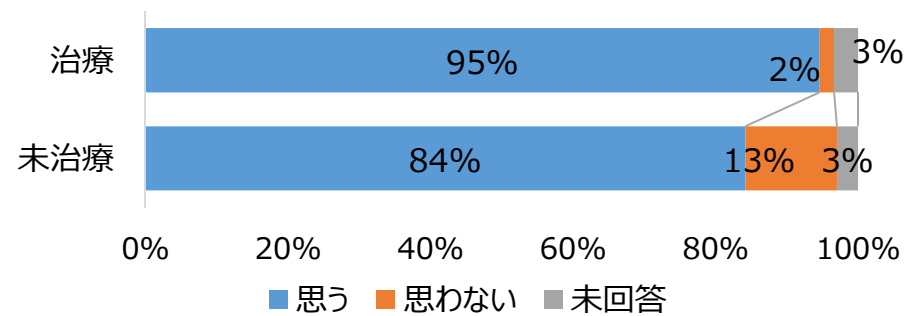
未治療者の方が、ウイルス放置リスクへの危機感が低い。医療費助成に関しては、未治療者の中の定期通院者の認知度も低く、医師からの適切な説明が必要と考えられる。

未治療者の方がウイルスは自然排除されると認識している。

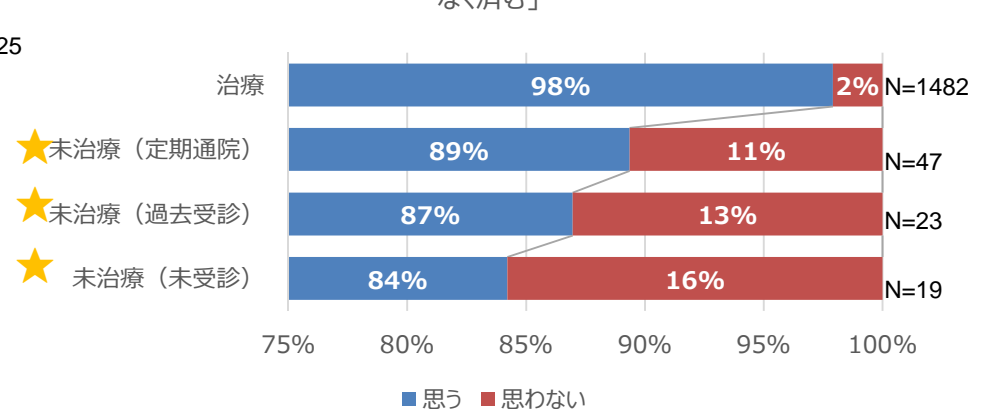
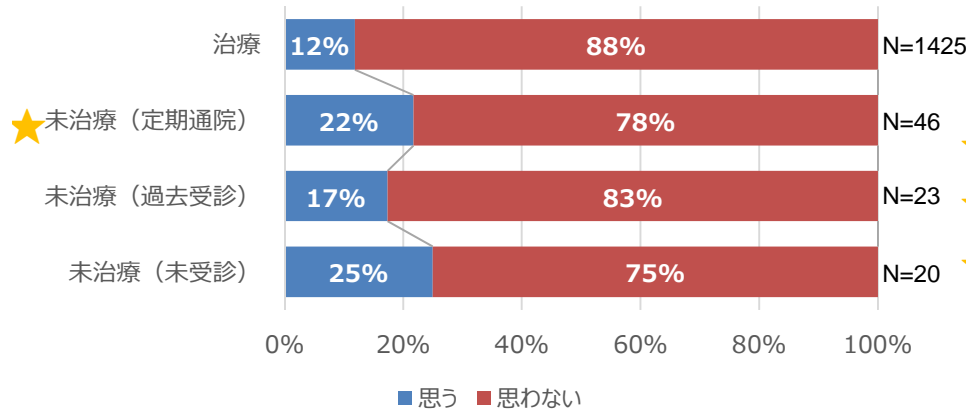
未治療者の方が治療費助成を利用すれば、抗ウイルス治療の医療費は少なく済むと認識していない。



(ア)「肝炎ウイルスに感染しても、ウイルスは自然に排除される」



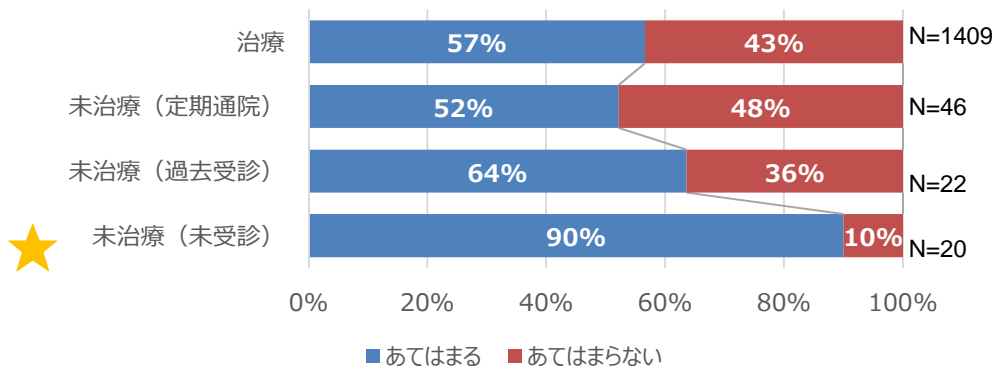
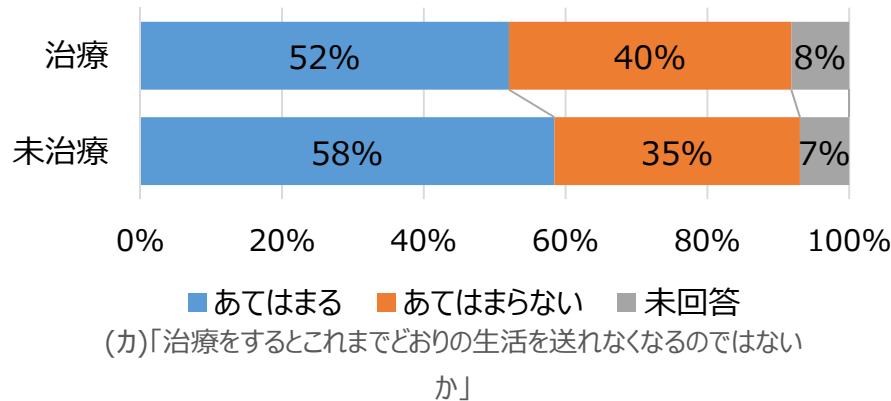
(ケ)「治療費助成を利用すれば、抗ウイルス治療の医療費は少なく済む」



治療者・未治療者の事前認識・不安の違い

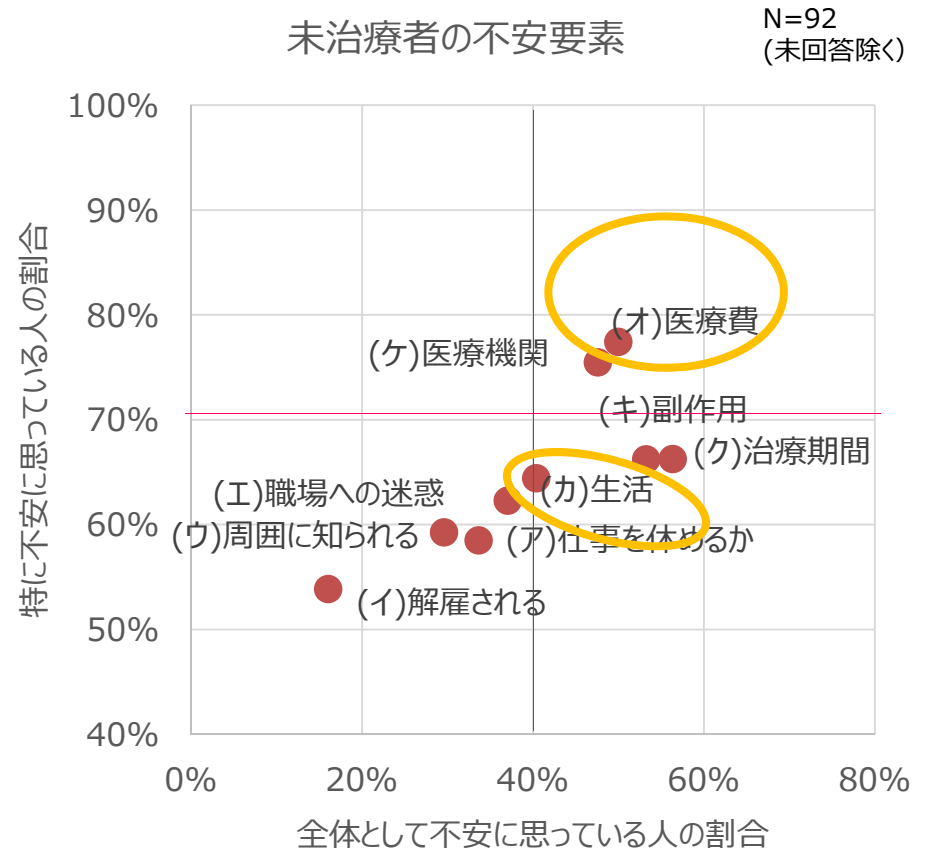
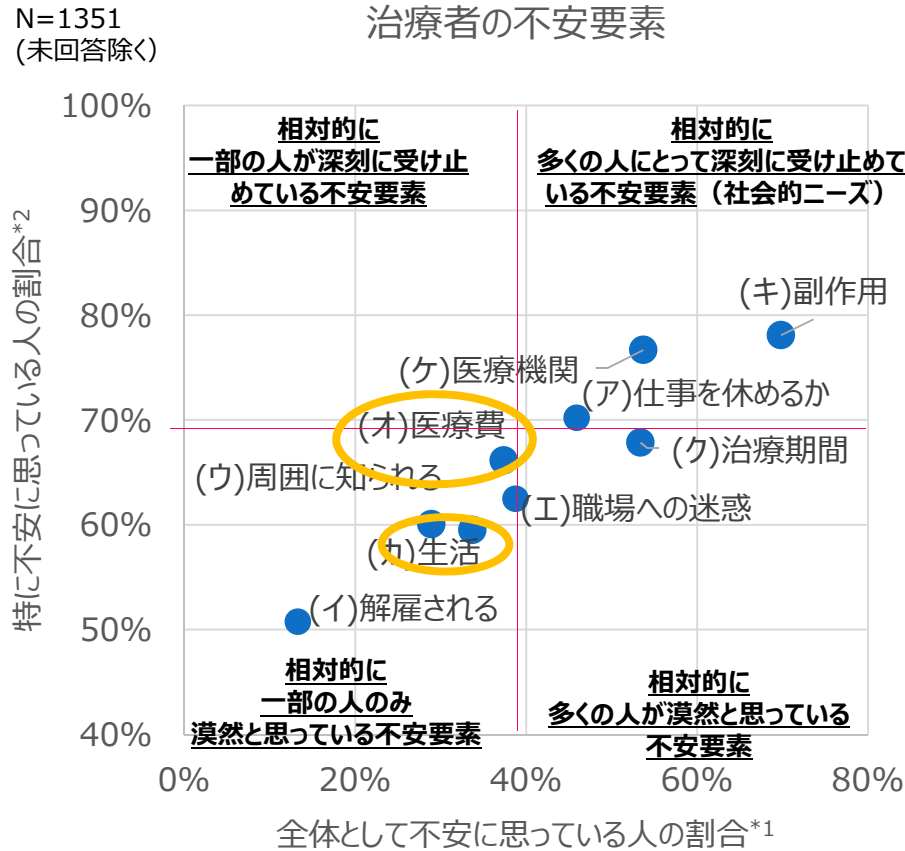
治療者よりも未治療の方が生活への不安を感じる傾向にある。これまでの生活を維持しながら、治療を行うことが可能であると認識されれば、未治療者も治療に踏み出しやすくなると考えられる。

治療をするとこれまでどおりの生活を送れなくなるのではないかと不安に感じている。



治療者・未治療者の事前認識・不安の違い

治療者に比べ、未治療者は「医療費」「生活」への不安を多くの方が抱えている。助成金の存在、申請方法、新薬によって生活への影響は軽減されることを伝えていく必要がある。

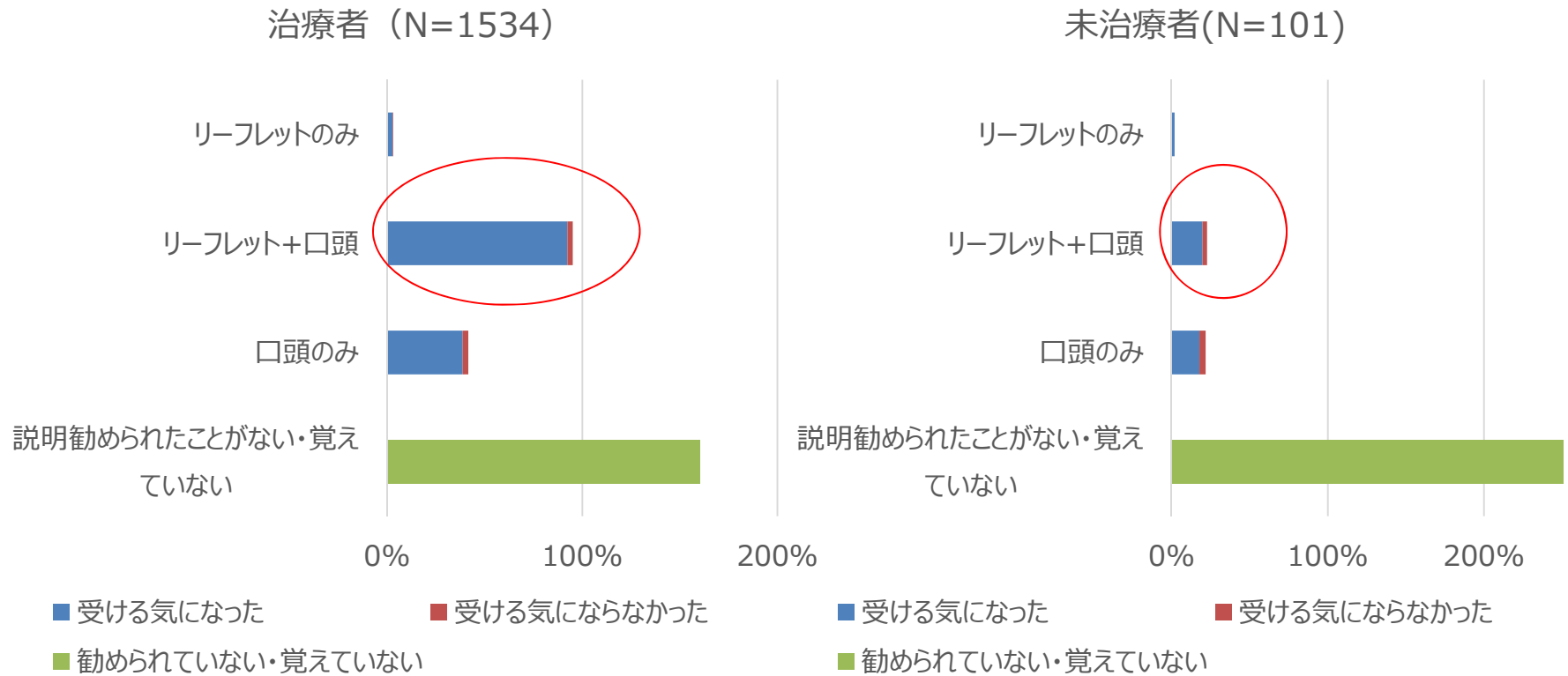


*:6段階評価 (「①とてもあてはまる」…「⑥全くあてはまらない」)のうち、
 *1全体として不安に思っている人の割合：(①+②+③)/全回答 (未回答を除く)
 *2特に不安に思っている人の割合：(①+②)/(①+②+③)

治療者・未治療者の説明方法の違い

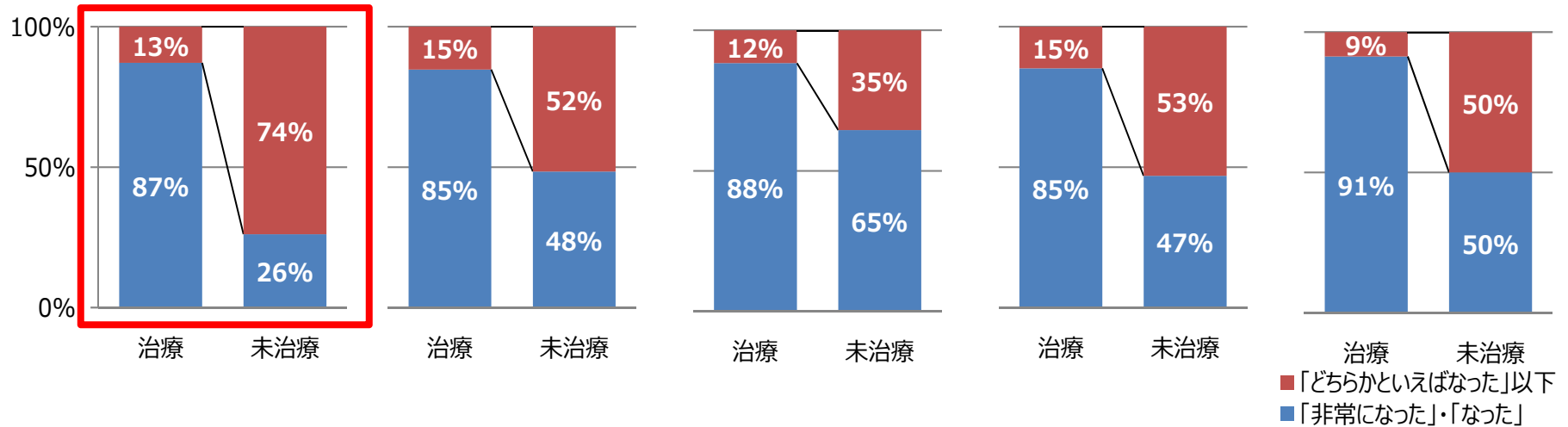
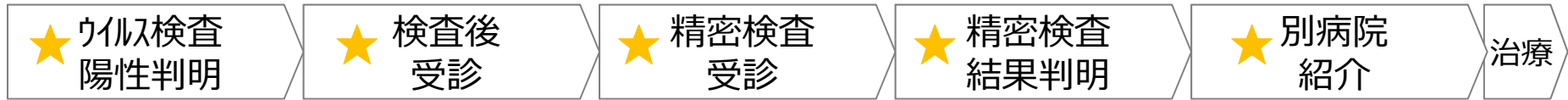
治療者は、未治療者に比べ、「リーフレットなどの説明資料（以下、リーフレット）」+「口頭」での説明を受け、治療する気になっている割合が多い。

医師（ウイルス検査医・精密検査医・治療担当医）からの説明方法別
治療意欲の割合（延べ人数）



治療者・未治療者で比較する効果的な説明タイミング

最も治療者との差が有意になったのは、「ウイルス検査陽性判明」時であった。「ウイルス検査陽性判明」時の説明有無が治療・未治療を分ける大きな分岐点と考えられる。



★:いずれのタイミングも治療者・未治療者間の差が有意水準5%で有意